





414  
4362



上

杉亨二

大正十一年四月  
大隈侯爵御書





不名于天下

一政表而取謂之優レ凡天下之事物逐一政表之上大

記レ以優レ者レ之レ名レ名實相離レ以レ之レ名レ利害

大子而政勢之上レ關係レ以レ之レ名レ而振レ之レ物

能レ之レ民心レ滋レ底レ以レ之レ事實レ明レ自レ去レ紀レ以レ之レ

才レ一レ而能レ以レ之レ是レ正レ教レ百年レ來レ以レ其レ事レ

之レ舊レ法レ之レ有レ又レ以レ之レ新レ算レ之レ信レ者レ之レ修レ之レ者レ

之レ夫レ是レ之レ以レ之レ方レ之レ新レ算レ之レ信レ度レ好レ難レ



或は傳難印の付上下隔絶の弊を以て世有  
之化しと有司とを以て治世の事と有しはは  
先づ其根本を尚除く事の上と有しはは  
振ふ事と事實の自に取調し出来仕る事  
有る事と世に別れと有しはは

皇化域海外ニ施させらるる二十五年内の人  
皆赤國恩を存一民も少無同心振力仕る事  
是身一と有しはは振ふる事の上と有しはは  
後二と有しはは世に南化を進らしむ事置の上と有しはは  
大に南化の事と有しはは南化の事と有しはは  
之古の例多しと有しはは元ノ世に南化を進らしむ事  
三振と別と有しはは南化の事と有しはは  
有る事と有しはは農工と有しはは南化



いかにある農之道南より北へは好ま  
し敷く来替りて終りて終る農之道は物なき  
お車の上の道南より北へ道路の家を石垣世訪  
籠城の教尺より二枚並に平籠城の精道  
傳信をくお車又新規の更く要具七造り  
以ていれお車より二枚並に一丁世形の産  
と中より世形は是も理学算学他学器械  
学等より法より農を教へ玉成教へ修へる

上にもある如く訓導のいかに各形精神の  
おのけ藝学測の道と考おのけ世形の産  
中には形を各形の産と考諸物に開き  
お車より二枚並に一精神の開と中より世形の  
相精神の開と中より世形の産と道と開  
並に精神の開と中より世形の産と道  
二枚並に又道を開き中より肝象の世形の  
より又道の開と中より世形の産と道



奴隸之風止りて西洋之歴史を免れし  
抑も奴隸之俗生るべし  
除きし事一國之才一多勢を以て十年の  
北亞聖利かゝりて奴隸之廢を以て後  
世に傳ふるに  
南部方道子背く者降膝を以て西洋救  
千年來の大業は南洋の人民大約同一傳  
はれし比し新南洋の歴史を以て  
皇國十

武家之母を世傳者にして  
声除き成りて一傳の中心農高の者にして  
能量も徳も其の官禄も其の位も其の難有  
なりて其の能く其の道世界の勢鬼角戦争  
は強し其の同化も其の進みなり  
皇國の歴史  
此の歴史も其の仁徳も其の同化も其の域も其の  
後其の幸福も其の上も其の法も其の道も其の去  
市道海も其の天下に善く其の進みなり



い哉ニ古の如く一二素大ニ上ハ

一 四民互ニ婚姻以テハ依古也久シキ事

古婚姻ノ依古也久シキ事一氏族言ニセ

させしハ古趣意母微以テテ農ヲ

高クテ互ニ敬ミ原ク農士ノ權威ニ畏

農ヲ為シ如隸ノ心ニ成リ信習テ自他

ヲ思ハ農士ノ農好ニ工好好ニ同好

ハ古也自ら志ニ任セ結ニ職業ヲ

勤シテ農人ニ正別仕切テ農ニ唯職業ニ

區別ノニハ農夫ノ職業ノ巧者也其有ハ

世實ニ弊ヲ止メテ強弱ノ道ヲ強者貴

ひハ弱ニシテ強ハ強業ニ益ニ有テ國ヲ

いつテ豊キニ有テ農工ノ一ツ業ニハ

ニツテ位ニ衰ハ國ヲ亦治テニ有テ為

人及同ニ有テ各ノ業ヲ純ニシテ

ハ古也急務ニ有テハ古也



陸の人情を但に推置せざる可き定大なる高き  
主の人の法を諸藩に於る先法無習に歴々  
婚姻之法を同す所の推置るも再い推置  
をせしいつして改定する所を去るは  
仕る事

一 土下望而業止す事

大土下望にてもと馬及林奴隷を以て  
習ては世に早きは是れ韓国に比降肢を去

林業所望にた免れ或は耐に権道地用する  
ともこの方共世に其の権漸く世に  
て國家に望むるは是れ先帝の文化に  
計りありと極く一思風なる今日も  
妨もて是れ其院の時年元大も各不封土人  
及を還るるの上は信託に民は皆皇土  
に高きなる方とて是れ民皆に土下望に  
て予一と國体を守りて是れ又皇國人の封



此文の美評は、まことに其聲は快くも  
ゆるり異人にして、其才は若くも  
大馬回れ、心も成程、志も  
あゝ夫果は、其西岸、くも、奴隷、  
の、何、何、何、何、何、何、何、何、  
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

右二、素、後、改、  
其、同、化、心、  
二、大、二、大、二、大、二、大、二、

國、益、之、  
年、益、之、  
改、事、  
已、之、  
皆、改、  
既、之、  
有、之、



お南の事なりたはるる 皇國の及心をこの南  
化の事なりたはるる 農工高し業も大なり  
近き國侯の法てお之集積しるるなり  
陸の國産錢多し富強し富強は天子の  
威を信し守たはるる以上

年 七月

杉才二

一 別術の術も天下の術爲。最も秘。非凡の術も  
世々此れよりするも中此れより此れより及ぶるも  
後にも今も此れは唯。世々此れよりするも中此れより  
尤も此れは此れの人一人より此れの人一人  
お南の事なりたはるる 西國の出来並殊  
形規の術も此れは此れの人一人より此れの人一人  
此れは此れの人一人より此れの人一人



唯信を仰ぐの外世に事なほ無きなり  
別紙に案し書札行もあはれ人良しと  
信仰心一高き事二十日我と有はるる  
と依り方今とて書札行と別紙に  
付通る書札用と書札と  
あり候事

七月

秋意二



14  
1263



